

目指す学校像	学校の伝統と地域の実態を踏まえ、「人に学び、社会に学び、自然に学ぶ」魅力ある学校
--------	--

重点目標	1 教育のDXで実現させる学びの自律と個別最適化そして探究化 2 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being) を実現する未来の教育の実現 3 コミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域との連携・協働の充実 4 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査、市の学習状況調査では、市平均を下回っているものが多い。 ○日々の児童の学習の様子を見ると、配慮や支援が必要な児童が多い。 <課題> ○市の学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着、与えられた情報から問題を解決したり、図表などを用いて考えを表現したりすることに課題が見られる。 ○学習規律の定着、児童一人ひとりが主体的に学ぶための授業改善に取り組む必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の確実な定着 学校課題研修の充実、「学びのポイント」を生かした授業実践 馬宮東小独自の「STEAMSTIME」の計画・実施 	①学力調査の結果をもとに、基礎学力の定着、読解力の向上を目指し、学習習慣の定着、生活習慣の形成を学校、家庭で取り組む。(マミヤンカード) ②学校課題研修や指導課訪問を中心とし、教員一人ひとりが日々授業改善に取り組む。	①全国学調・市学調の結果を分析し、各学年等で身に付けさせたい力を明確にできたか。学校評価職員アンケートにおいて、学力、授業改善の項目で肯定的な回答85%以上になったか。 ②学校評価アンケートにおいて、学校課題研修、ICT活用推進の項目で肯定的な回答85%以上になったか。					
2	<現状> ○不登校傾向や配慮や支援を必要とする児童がおり、組織を生かし、実態・状況に合わせて迅速な対応、体制が必要である。 ○新たな環境へ対応することが難しかったり、人間関係の構築がうまくできなかったりする児童が増えている。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切で迅速な支援を組織的、計画的に行える体制を充実する。 ○児童の実態に応じて、馬宮東小学校等の居場所をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりの多様な幸せのためのきめ細やかな支援 全ての児童が安心して過ごせる居場所づくり 	①月に1度の生徒指導委員会で児童の様子を全職員で共有を図り、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援をする。 ②担任や担当からの情報が確実に関係主任や管理職に報告される体制をつくり、必要に応じて校内委員会で指導・支援体制を決定し、対応する。	①月に1度の生徒指導委員会に児童の情報共有、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援体制づくりができたか。学校評価アンケート生徒指導・教育相談の項目で肯定的な回答85%以上になったか。 ②校内委員会などを通して情報共有を積極的に行えたか。学校評価アンケートにおいて、組織的運営の項目で肯定的な回答85%以上になったか。					
3	<現状> ○昨年度創立150周年記念事業を終え、保護者、地域の協力体制が充実している。 ○学校行事や学校 Web ページ等で教育活動の積極的公開を今年度実施している。 <課題> ○コミュニティ・スクール体制を明確化し、学校運営協議会を中心として、SSN 等との連携・強化を図るとともに、一体となった取組の周知が十分ではない。 ○学校・家庭・地域での取組として「あいさつ」「読書」に重点的に取り組んできたが、読書についてはあまり成果が上がらず、継続しての取組が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール体制を充実させ、学校、家庭、地域が協働体制の構築 「読書活動」の一層の推進 学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動の実施 	①コミュニティ・スクール体制を具現化する。 ②学校、家庭、地域で一緒にできる取組を児童が参画し、立案することで、エイジェンシーを育む。	①学校、家庭、地域が一体となった取組を実施し、コミュニティ・スクール体制を具現化できたか。 ②計画・代表委員会の児童とともに、学校、学校、地域が一体となった取組について話し合いを設け、主体的に参加することができたか。					
4	<現状> ○ICTを活用することにより業務改善は少しずつ進んでいる。同時に、教員のICT活用については、やや個人差がある。 ○年度当初の仕事量増、児童・保護者対応等により、業務過多や負担感が大きい職員も見られる。 <課題> ○学校課題研修でICTの効果的活用の授業改善に取り組み、教職員の資質向上に繋げたい。 ○業務のスリム化、分掌内の連携等、随時見直し、教職員が安心とやりがいをもって業務に取り組めるようにすることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 学校職員一人ひとり、また組織としての力を発揮し、馬宮東小学校の誰もが居心地のよい、働きがいのある学校 	①学校課題研修でICTの効果的な活用の授業改善を行っていく。また、エバンジェリストの研修内容を他の職員に周知し、職員一人ひとりの資質向上を繋げる。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善に繋がるように、目標設定、途中経過確認、振り返りを行う。 ③業務の精選や各行事の反省をもとに、随時業務の見直しを図り、教職員の負担軽減を図り、協力し合える、相談し合える職場環境づくりをする。	①学校課題研修について、講話をもとに方向性を明らかにし、研修の方向性を明確にすることができたか。ICTの効果的活用の研修で教員が授業に生かすことができたか。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善等について、振り返ることができたか。 ③業務の精選、見直しを新たに図り、保護者に周知し、理解を得る。学校評価職員アンケート肯定的な回答85%以上、職員の勤務に関するアンケート業務負担感減					